

## 砂丘と共に生きる

「ど根性大根」を覚えている。もう 10 年以上も前のことだが兵庫県相生市の歩道で、アスファルトを突き破って大根が育っているのを市民が発見した。それは日本国中にあつと驚くビッグニュースとなった。これには様々な諸条件と好条件が重なり合ったように思われる。そして何よりも生きようとする大根の旺盛な生命力があつたに違いない。私が好きなことわざに「踏まれても踏まれても なお咲く たんぽぽの笑顔かな」がある。



さて日本には貴重な国の天然記念物に指定されている鳥取砂丘がある。この美しい自然を守り続けるには大変な努力が必要となる。ここにはもともと鳥取砂丘に生えていなかった外来植物が 50 年近く前から目立ち始めてきた。このままにしておけば砂丘本来の美しい景観が失われていく。砂丘を侵略する草原化が深刻な問題となっていった。そこで鳥取県砂丘事務所ではこうした問題を含め、落書きや危険行為などの課題を解決すべく「鳥取砂丘レンジャー」が活動。さらに多くの県民や観光客などによるボランティア除草が行われている。自然を愛する人間の闘いは今も続いている。

一方世界に目を向けると鳥取砂丘とは反対に深刻な砂漠化が進んでいる。植物ひとつ生えることのない不毛の大地が急速に拡大しているのだ。こうした砂漠化には気候的要因と人為的要因が影響しあっているのであろうが、人類の英知を振り絞り調和のとれた地球を永久に守り続けたいものである。

撮影 2016 年秋

